

学校保健

平成29年 5月

No. 324

(公財)日本学校保健会ホームページアドレス
http://www.hokenkai.or.jp/



JAPAN SOCIETY
OF
SCHOOL HEALTH

(公財)日本学校保健会

平成29年度
年間特集

テーマ

「いのちの大切さを考える健康教育」

公益財団法人日本学校保健会 専務理事 弓倉 整

日本学校保健会の会報は年度毎に特集を組んでいます。平成29年度は「いのちの大切さを考える健康教育」としました。「生命の尊さ」は、現在の教科外活動から2018年度以降「特別の教科」に移行する「道徳」で教えられていることになっていますが、道徳のそれが始まる前に、健康教育という視点から特集を組むことになりました。

「道徳」が「特別の教科」となるにあたっては、少年犯罪やいじめによる生徒の自殺などが背景になった訳ですが、最近も福島県からの避難者に対する学校現場における「いじめ」が発覚するなど痛ましい事件が続いているのは残念です。

日本学校保健会では、2年毎に児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書をまとめて発表していますが、平成26年度調査では、「自分には、自慢できることがあまりない」という質問に対し、「よくあてはまる」、「あてはまる」と回答した小学5・6年生は27%でしたが、中学生では56.4%、高校生は60.7%でした。「自分は全くだめな人間だと思うことがある」という質問に、「よくあてはまる」、「あてはまる」とした小学5・6年生は11.4%でしたが、中学生は46.6%、高校生は49.1%と中学・高校になるにつれて自尊感情が低下していることがわかりました。

かけがえのない命を授かった自分は素晴らしい存在であると思っただけですが、この結果は大変残念です。自尊感情が低下していると、他の人への感謝、優しさ、思いやりという感情が芽生えにくくなることも考えられます。また自分を大切にできなくなり、問題行動に走る恐れもあります。自尊感情の低下には、競争社会や生活環境、貧困など様々な原因があると考えられます。そのひとつに病気もあります。「いじめ」などの原因を自尊感情の低下だけで説明するのは無理があると思いますが、通奏低音のように根底に流れているもののひとつではないでしょうか。様々なアプローチを通じて、児童生徒が自分自身に対してもっと自尊感情を高められる社会にして行くことが必要だと考えます。

ところで健康教育は、本来「心身の健康の保持増進を図るために必要な知識及び態度の習得に関する教育」ですが、健康課題に対して正しい知識の習得、理解に続いて、実際に健康行動を起こすこと（態度の変容）、とそれを維持すること（行動変容とその維持）が必要になります。態度の変容と行動変容を起こすためには、まず「正しい知識と理解」が不可欠です。「生命に対する畏敬の念」は「道徳」のみならず、「健康教育」という視点からも重要だと考えます。健康教育はそれ自体、幅広い内容を包含するものですが、本特集では学校の場面において「いのち」につながる特集を展開して行きたいと考えています。

日本学校保健会会長 横倉義武が 第9期中央教育審議会の委員に選出されました

我が国の教育政策の基本的な方針を決定する、極めて重要な審議会の委員就任にあたり、日本学校保健会はもとより関連団体からも喜びと今後の期待の声が寄せられています。およそ100年前より子供たちの健康を願って推進し続けてきた日本学校保健会の活動を基盤に、健康教育・学校保健分野が学校教育の骨子となることを期待されます。今後も子供たちが生涯にわたり心身ともに健康に過ごすことができる活動を推進してまいります。皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



主な誌面

特集 いのちの大切さを考える健康教育Ⅰ	2
総論 全国健康づくり推進学校表彰校の実践①	3
埼玉県幸手市立八代小学校 「道徳」が「特別の教科」となるにあたっては、少年犯罪やいじめによる生徒の自殺などが背景になった訳ですが、最近も福島県からの避難者に対する学校現場における「いじめ」が発覚するなど痛ましい事件が続いているのは残念です。	4
シリーズ②「健康教育をささえる」 学校保健学の知の創造と発信	5
6	7

特別企画 子どもとメディア実践事例紹介	8
学校専任者・感染症情報システムについて	9
平成29年度「学校保健用品・図書等推薦一覧」	10
13	12
14	12

回覧

校 長	教 頭	保健主事	養護教諭	栄養士・学校栄養職員	PTA会長	学校医	学校歯科医	学校薬剤師

【お知らせ】「学校保健」は年6回（奇数月）の発行です。学校保健委員会の参考に学校三師の方々へもご回覧ください。

特集 いのちの大切さを考える健康教育 I (全5回予定)**総 論 — その現状と課題 —**

茨城大学教育学部教授・会報『学校保健』編集委員 瀧澤 利行

はじめに

この20年余りの日本の社会において、いじめによる致死事件、いじめを苦にした自殺、感情の行き違いやストーキング(つきまとい)による傷害や殺害、さらには介護負担の過剰による殺害など、青少年はもとより中高年も含めて、「いのち」の尊厳性を著しく損なう事件・事案が後を絶たない。報道の目を引きやすく、またインターネットの普及による情報伝達の早さがその頻度の上昇を感じさせる要因となっていることも否定できないが、社会全体の中で「いのち」の尊厳性をどのように考え、それを次世代に伝えていくかという課題は、年を追うごとにその必要性が高まっていることは否定できない。

もともと、「いのち」の尊厳性とそれをめぐる社会的諸課題は、宗教学や生命倫理学・医療倫理学、医療社会学などの学問領域でかねてから研究されてきた課題である。医学においては医聖ヒポクラテス以来、医学の存立基盤として「いのち」の尊厳を前提

としてその行為と研究は正当性を維持してきた。生殖医療や脳死者の医療処置継続の意味を問う中で改めて医療の中で生命の尊厳性が問われてきている事実があるが、それは医療や公衆衛生の中で自明とされてきた生命の尊厳性を改めて自問するという思想的意味をあらわしているといえる。

では、社会の中で高い関心を集めている「いのち」の尊厳性について、医療と教育の接点にあるといえる学校保健や健康教育の中で「いのち」の尊厳がどのように扱われてきたかを顧みると、社会での議論の活発さに比して、必ずしも高いとはいえない状況にある。そこで、本誌では「いのち」の大切さを考える健康教育のあり方を学校保健の諸領域から考える機会を設けることにした。今号では、学校における「いのち」の教育の現状と課題を概括することによって、次号以降の個別の論考の海図としての役割を果たしたい。

学校教育における「いのち」の教育

一言に「いのち」の教育と表現しても、「いのち」の解釈をどのようにするかによってその対象の広狭は異なる。生物学的な概念としての「生命」に関しては、小学校の生活科や理科、中学校理科・高等学校理科の生物的内容で相当な時間数と内容が取り上げられている。人間の生き方としての「いのち」のあり方としては高等学校「公民」の現代社会や倫理の中で青年の生き方や自己同一性の課題、生殖医療や臓器移植の問題なども取り上げることができる。また現行の小学校・中学校の「道徳」あるいは新学習指導要領における特別の教科「道徳」においても内容として「生命の尊さ」や「よりよく生きる喜び」として挙げられている。

しかしながら、学習指導要領においては理科的内容や保健的内容では、科学的な概念としての生命の成り立ちや構造を指導することが主要な内容であり、道徳においては具体的にどのように生命の尊さを教えるのかについては詳細な見取り図は必ずしも明確

に示されていない。内容上の取り扱いにおいても例えば特別の教科「道徳」において「科学技術の発展と生命倫理との関係や社会の持続可能な発展などの現代的な課題の取扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度を育てよう努めること」と、現代的な生命を取り巻く状況との関連づけを行い、主体的な意欲・態度を形成することを示しているが、その具体的なすすめ方は各学校の教育内容と教材構成の考え方と実施に委ねられている現状である。新指導要領の解説によって、より具体的な方向性は示されるであろうが、これまでの経緯を考えると、具体的な児童生徒への教育活動の展開においては、担当する教師の教育内容の理解、教材構成のあり方、そして授業展開に依存するであろうことは想像に難くない。具体的な「いのち」を大切に教育の展開は、担当する教師の生命に関する深い理解とその伝達の手法に影響されるものであることは言をまたない。

これまでの「いのち」の教育

これまでの「いのち」の大切さを考える教育の方向性や内容を概観するといくつかの類型に分けることができる。いうまでもなく、それぞれの類型に該当

するとした実践が多面的な意義をもつものであり、当該類型への配当はあくまでもそれぞれの実践のもつ一側面に着目したものであることを付言しておく。

- 1) 身近な動物と児童生徒の関わりを通じて生命の大切さとその意味を考えさせる取り組み
事例：金森俊朗『いのちの教科書』、黒田恭史『豚のPちゃんと32人の小学生』など
 - 2) 身近な人々や自身の死、疾病に直面した生き方の過程を通じて生命の大切さを考えさせる取り組み
事例：前掲金森の実践、画家星野富弘（元保健体育教師で部活動指導中の鉄棒からの落下で脊髄損傷し画家・詩人として転生した）の生き方の読解を通じた取り組み、山田泉『いのちの授業』をもう一度 ―がんと向き合い、いのちを語り続けて―（養護教諭によるいのちの授業）など
 - 3) 人生の経験者による生き方を通じた生命の大切さを語りかける過程を考える取り組み
事例：日野原重明『いのちの授業』、菊田文夫・日野原重明『みらいへの教科書』など
 - 4) 上記の課題を含めて子供の発達の中で遭遇する諸課題を通して生きることの大切さを考えさせる取り組み
事例：“人間と性”教育研究協議会『いのちとからだ・健康の学習』、近藤卓『いのちの教育』など
- 以上の例は、「いのち」の教育のごく一部に過ぎないが、「いのち」あるいは生命現象を動物の生と人間との関わり、人間の病や死という現象、ライフイベントを経験した人のライフヒストリーを通じた生の実像、発達課題に即した生の諸課題を「いのち」の展

開様式として考えさせるという特徴によって類型化される。それらの取り組みに共通している点は、「いのち」あるいは生命を抽象的な対象として教えるのではなく、何らかの具体的現象、すなわち個別の生命の展開様式（端的に言えば個々の人々の「生き方」）を通していのちや生命の「すばらしさ」を教えていこうとする視点を共有していることである。その結果として、多くの取り組みで児童生徒が感動する個々の生に関するエピソードが記述され、それを認識することが授業の内容となっている。

こうした共通視点が、生命の営みを感動的にとらえ、その感動を通して「いのち」あるいは生命のすばらしさや尊厳性を知るという教育上の目的を充足させている点では一定の評価がなされてしかるべきであろう。しかしながら、一方でこれらの取り組みは人々の日々の生活において日常的に生起する卑近な事々ではなく、通常はなかなか体験しがたい問題を通して生命をとらえるという課題を抱えている。すなわち、21世紀の日本の社会に生きる児童生徒が簡単には体験し得ない事象を通して「いのち」や生命の実像を考えさせる場合が多いために、その特殊な体験を通してしか「いのち」の実感を想起することができないような授業の構造になりがちである。そのために、敢えて非日常的な経験を体験させたり、計画的な体験学習を実施したりするという媒介を通して成立するような授業構想になっていることが少なくない。

いのちの大切さを考える教育の課題

今後、特別の教科「道徳」の設置によって、生命倫理的な観点からの「いのち」の学習の機会は、ますます学校の中で増えてくることになる。ここで想定すべきは、学校で学ぶ児童生徒の大多数は、特筆すべきライフイベントをもつ機会がなく、生の実像を体験する場面も乏しい子供である。そのような児童生徒が「いのち」の大切さを実感できる教育を受けるためには、まずは卑近な現象から「いのち」の姿がはっきりと見て取れるような日常世界の教材をつくり上げていく必要がある。恒常的な学校の場合で身近

に存在する現象の中から、いのちの営みが見いだせるような教育的経験がきわめて重要となる。

いのちに直接結びつく「健康」の諸事象を題材に教育を展開してきている学校保健や保健教育は、まさしく「いのち」の現象の多面性を具体的な健康現象を通して理解・認識させる場であることは、この課題に関わる多くの人々にいま一度明確に認識してほしいところである。健康教育の観点からの「いのち」や生命の大切さを考える教育の検討が急務である。

中高生を指導する養護教諭のためのスキルアップ研修会

参加無料

明日からの実践につながる!! 思春期の性と心とからだ教育 ～産婦人科医とライフスキル教育の視点から～

思春期の心と体について、何をどう指導すべきかを実践的に学び、考え、指導力を養うプログラムです。

主催：公益財団法人 日本学校保健会 共催：「未来はカラダからだ！」（オムロン ヘルスケア株式会社ほか）

東京開催：2017年8月7日（月）13：00～17：00

大阪開催：2017年8月4日（金）13：00～17：00

定員：各会場100名（先着順） 参加対象：中学校・高等学校の養護教諭（小学校も可）

*会場詳細や申し込みは日本学校保健会ポータルサイトをご覧ください。



全国健康づくり推進学校表彰校の実践①

「真剣・集中」の学びの姿と自信を育てる地域に根ざした学校 —学校、家庭、地域が総掛かりで行う豊かな健康教育の創造—

平成 28 年度最優秀校 埼玉県幸手市立八代小学校

1 学校紹介

本校は、昭和29年に開校し、創立63年を迎えた児童数79名、6クラスの小規模校である。学校教育目標（知・徳・体）にこれらの基盤となる食（よく考えて食べる子）を位置付け、教育活動全体を通じて健康教育を推進している学校である。また、本校は、「八代の子は八代で育てる」といった地域理念のもと、学校、家庭、地域が総掛かりで、子供の豊かな教育の創造のためのカリキュラムマネジメントをすすめている。



2 学校経営方針と健康教育

本校では、校長の示す学校経営方針のもと、スクールプラン（八代小学校のめざす教育）が作成され、それをもとに学校が教育の中心となり、子供の豊かな教育の創造のためのカリキュラムマネジメントを健康教育（学校保健、学校安全、学校給食）・体育を中核として行い、PDCAのマネージメントサイクルを活用しながら実践を進めている。

3 具体的な取組

(1) 保健教育の推進（基本的な生活習慣）

- ① 学校と家庭・地域の共同指導目標「8つの種」
八代小に子供が通ってなくても子供の成長が確かなものとなるよう、学校と家庭・地域の共同指導目標「8つの種」を全家庭に配布し、定着を図っている。
- ② 腰骨タイム
規律ある態度はもちろんのこと、姿勢がよくなるとやる気みなぎることから、「腰骨タイム」を業前に全校で実施している。年度の初めは、腰骨の立て方やその効果について校長講話で全校に話をしている。
- ③ せいかつリズムチェック週間
毎月、食事や睡眠、排便等生活習慣について振り返る機会とし、結果については朱を入れて返したり、学校保健委員会で報告したりして、家庭での協力をお願いしている。
- ④ スマートフォン・携帯・ゲームによる生活習慣の乱れが及ぼす健康被害の防止



家庭・地域間

地域・家庭・八代小学校での共同指導目標
「8つの種」

ここでは、「食生活」「生活習慣」「健康づくり」をテーマに、学校と家庭・地域が連携して取り組む目標を掲げ、定着を図ります。学校と家庭・地域が連携して取り組む目標を掲げ、定着を図ります。学校と家庭・地域が連携して取り組む目標を掲げ、定着を図ります。

1. 食生活の改善をしっかりとつづける。
食生活の改善をしっかりとつづける。食生活の改善をしっかりとつづける。食生活の改善をしっかりとつづける。
2. 「おはよう」を元気な声で挨拶することや楽しい言葉を身に付ける。
「おはよう」を元気な声で挨拶することや楽しい言葉を身に付ける。おはようを元気な声で挨拶することや楽しい言葉を身に付ける。
3. 基本的な生活習慣を身に付ける。
基本的な生活習慣を身に付ける。基本的な生活習慣を身に付ける。基本的な生活習慣を身に付ける。
4. 通学路・登下校時の安全を確保する。
通学路・登下校時の安全を確保する。通学路・登下校時の安全を確保する。通学路・登下校時の安全を確保する。
5. 子供の成長に合った生活習慣を身に付ける。
子供の成長に合った生活習慣を身に付ける。子供の成長に合った生活習慣を身に付ける。子供の成長に合った生活習慣を身に付ける。
6. 食生活の改善をしっかりとつづける。
食生活の改善をしっかりとつづける。食生活の改善をしっかりとつづける。食生活の改善をしっかりとつづける。
7. 子供の成長に合った生活習慣を身に付ける。
子供の成長に合った生活習慣を身に付ける。子供の成長に合った生活習慣を身に付ける。子供の成長に合った生活習慣を身に付ける。
8. 食生活の改善をしっかりとつづける。
食生活の改善をしっかりとつづける。食生活の改善をしっかりとつづける。食生活の改善をしっかりとつづける。

八代小学校・八代小PTA・八代小児童会・八代小学校運営協議会

- 生活習慣について考える保健学習を核として、県内ネットアドバイザーを外部指導者とした「親子で考える子供見守り講座」や休日に家族で「アウトメディア」を実施したり、市教委作成のリーフレットを活用して、3つの「しよう」、6つの「しない」を啓発したりしている。
- ⑤ 小児生活習慣病診断・のびのび教室・親子就学時健診

4年生を対象に血液検査をし、生活習慣を親子で見直す手がかりとしたり、生活習慣病の怖さとその対処法を親子で学ぶ機会としたりしている。また、就学時健診の際、保護者が立ち合い、共にその状況を確認し、入学前の治療を進めている。



(2) 教科横断的健康教育

体育保健領域で獲得した知識をリソースとして、他教科や領域で深めたり、広げたりできるよう教育課程を編成している。実施に当たっては、地域の人的・物的資源を活用したり、社会教育との関連を図ったりしている。



命の授業（体育・総合）

地域学校保健委員会

学校における食育（生活科・総合・特別活動）

(3) 地域・家庭との連携による取組

子供たちの豊かな学びと育ちを創造するために学校経営・運営についてご意見をいただく会「八代小学校学校運営協議会」や区長会主宰の「八代地区連絡協議会」では、地域・保護者のバックアップを学校力に変え、八代小の教育活動を推進している。

また、安心安全の視点では、地域と合同で合同防災訓練を行ったり、毎朝、スクールガードリーダー・スクールガードの方々が各担当方面から、子供たちの安全を見守り、ともに学校まで登校をしたりしている。「おはようございます。」「行ってらっしゃい。」やその時期での会話の内容等、子供の人間関係も見守りながら、子供の安心・安全にご尽力いただいている。



合同防災訓練

八代地区連絡協議会

登下校見守り活動

(4) 体育の推進

日々の体育授業を大切にすると共に、毎日の朝マラソンや業前運動「チャレンジタイム（多様な動きを取り入れたローテーション運動）」を実施している。また、年間2回の運動会（春：学校独自、秋：地域との運動会）を実施し、日頃の体育科授業の成果を披露している。結果、平成27年度、28年度新体力テストのレベルA+Bいわゆる運動が得意なレベルは、90%を超えている。市内陸上大会でも、児童は、たくさんの賞状と共に多くの自信を学校に持ち帰っている。



八代地区ニコニコふれあい運動会

4 成果と今後の課題

学校が教育の中心となり、健康教育・体育を核として子供の豊かな教育の創造を行うことで、学校、家庭、地域総掛けりでの取組が生まれた。地域の教育力が学校に集まり、豊かな体験活動の学びとなったり、子供の安心・安全のための取組が生まれたり、八代小学校に子供が通っているのがいいが共に育てる気風が生まれた。学校・家庭・地域に見守られ豊かに育った子供たちは、自己有用感が高まっている。

子供の周辺環境（情報・交通等）は、日々変化している。対応した取組を学校が教育の中心となり指導するとともに、家庭・地域に情報発信し続けていく。

こどもが楽しく学ぶ健康学習推進研修会 in 岡山 （第3回まんがヘルシー文庫健康学習活用研修会）を開催します！

主 題：「まんがヘルシー文庫の食育・健康学習への活用提案と推進」

開催日時：2017年8月25日（金）13:00

開催会場：岡山県医師会館 三木記念ホール

岡山県岡山市北区駅元町19番2号

主 催：公益財団法人日本学校保健会・大塚ホールディングス株式会社

後 援：岡山県教育委員会

詳しくは、Web (<http://www.otsuka.com/jp/comiclibrary/workshop/>) をご覧ください。

《本件に関するお問い合わせ》「OTSUKA まんがヘルシー文庫」事務局（担当：笠原/山下） TEL：03-5715-3731 FAX：03-5780-0045

毎年、全国の小学校に
寄贈している
まんがヘルシー文庫の
健康学習への活用を
提案します。



2017年2月発行巻

シリーズ 62

「健康教育をささえる」～日本学校保健学会の現場から～

学校保健学の知の創造と発信

～(一社)日本学校保健学会 第63回学術大会～

筑波大学体育系 教授 野津 有司

(第 63 回学術大会 学会長)

1. 教育実践を支える研究知見の創出を

昨年(2016年)11月18日～20日に、一般社団法人日本学校保健学会の第63回学術大会がつくば市にて開催された。メインテーマは、「学校保健学の知の創造と発信～子供たちの健康と安全を守り育てるために～」であった。

今日の我が国では、グローバル化や情報化、少子高齢化等を背景として社会環境や生活様式が急激に変化していることや、医療や科学技術等が目覚ましい進歩を続けていることなども踏まえながら、次代

を見据えた研究知見を「創造」していくことが一層求められていると思われる。また、学校保健研究の成果を広く社会や国民に向けて、さらには海外に向けて積極的に「発信」していく必要もある。

そこで本学術大会では、学校保健活動の実践を支える学問あるいは科学としての「学校保健学」をさらに充実、発展させていくことが不可欠との視点から、「学」としての学校保健の研究成果の創造と発信に焦点をあてた。

2. 本学術大会における知の「創造」と「発信」

(1) 「チーム学校」で取り組む学校保健の推進に向けて

これまで「連携」をテーマとした学術大会は多くみられ、学校保健において連携がいかに重要な課題であるかは容易に理解できる。またそれは同時に、連携がいかに難しく、実現困難であるかの裏返しでもある。例えば、学校、家庭および地域の有機的な連携の実現を図ることは、二重ロックのかかった2つのドアを開けるがごとく難しいと言え、そしてそれらを開く『鍵』としては、1枚目のドアでは「共通理解」と「相互尊重」、2枚目のドアでは「役割分担」と「協調的アプローチ」であると考えられる(野津有司, 1996年)。

そうした中で、本学術大会では特別講演として、日本学校心理学会理事長などを務める石隈利紀先生に、これからの「チーム学校」における学校保健学の発展に向けた示唆をいただいた。チーム学校で学校保健活動を充実させるためには、学校教育において「心身の健康」を育てる視点を充実させること、チーム学校を支える学校保健のネットワークを活用すること、学校教育学、学校保健学、学校心理学、学校福祉学など「学校」を専門とする領域のコラボレーションを推進することが重要となることが述べられた。

また、シンポジウムとして、『「チーム学校」時代の学校保健安全のすすめ方』や「学校における精神保健の課題と対応－学校に関わる全ての人の知識と意識の向上に向けて－」などが開催された。議論の中で、学校三師や養護教諭などの学校保健活動に関わる必置の教職員に加えて、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、精神科医などが積極的に関係し、それぞれの専門性を生かした役割を果たしていくことの重要性が強調された。

(2) 次期学習指導要領を見据えた保健学習の充実に向けて

保健学習(小学校体育科保健領域、中学校保健体育科保健分野、高等学校保健体育科目保健)は、学校の教育活動全体を通じて進められる保健教育の中核として、極めて重要な役割を担っている。本学術大会では、「保健学習におけるアクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメントの充実」と題するシンポジウムが開催され、保健学習の実践のさらなる充実に向けた議論が深められた。とりわけ、2016年8月に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会によってとりまとめられた「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて(報告)」を踏まえ、次期学習指導要領に基づく実践を見据えたシンポジウムがこの時期に開催されたことの意義は大きいと思われる。

なお、本学会ではこれまで、2013年の第60回学術大会(東京)および2014年の第61回学術大会(金沢)において、「保健学習の改善・充実のための鍵は何か～学習指導要領の次期改訂を視野に入れて～」と題したシンポジウムの開催を重ねてきた。また、そこでの成果を基に、「次期教育課程に関する要望」を中央教育審議会に提出し(2015年6月)、教科「体育」、「保健体育」における保健学習と、学校教育全体における健康・安全に関する教育の一層の充実が図られることを具体的に要望してきた(『学校保健研究』第57巻第4号、205-206頁)。

これからの学校教育においては、論理的思考力や表現力、探究心や生きて働く知識・技能の習得、学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう

力等の資質・能力の育成が求められている。そして、そのために、基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるような学習プロセスの充実が求められている。

今回のシンポジウムは、そうした学びを実現するための「アクティブ・ラーニング」と「カリキュラム・マネジメント」に着目し、それらを充実させるための方策や課題について検討されたものである。

保健学習に関しては、このシンポジウムのほかに一般発表（口演、ポスター）も多くみられ、具体的な実践に向けた議論も活発に交わされた。

（3）青少年危険行動の防止教育の取組に向けて

青少年危険行動とは、「青少年期に始めやすく、本人や他者の現在および将来の健康や生命に重大な危険を及ぼす行動」のことであり、具体的には①身体運動、②食行動、③喫煙、④飲酒、⑤薬物乱用、⑥性的行動、⑦交通安全上の行動、⑧暴力・武器携帯、⑨自傷行動などである（野津有司ら、2006年）。これらの行動は、疾病や死亡の直接的および間接的な原因となっていることなどから、今日の我が国における

学校保健上の重要な課題として注目されている。

本学術大会の学会長講演では、「青少年危険行動研究の成果と課題」と題して、これまでの研究成果が紹介されるとともに、青少年の危険行動の防止に関わる課題が指摘された。すなわち、危険行動を防止するには、それらの行動に関連する要因を明らかにすることがまずは不可欠であり、近年の知見をみると、例えばセルフエスティームや規範意識、レジリエンス等の、教育的介入により改善の可能性のある心理社会的要因に注目した報告が目立っている。

そして今後は、青少年の危険行動を防止する確かな教育の推進に向けて、「教育プログラム開発のための介入研究」、「学校の教育課程を踏まえた実践的研究」、「学校、家庭、地域の連携の実現に向けた研究」などが求められることが述べられた。またその中で特に急務と言える「教育プログラム開発のための介入研究」については、①実験デザインによる長期的な介入評価研究、②プログラムの理論の有効性についての検証と普及を意図したプログラムの開発、③プログラム効果に影響を及ぼす対象特性の同定のための分析、④開発者による最大効果予測から普及時の効果予測、⑤タイプⅢエラーの問題への工夫、の5つの課題が示された。

③. 研究活動のさらなる活性化に向けて

学会としてまず担うべきことは研究活動であり、学術的知見を創出し発信していくことは、学会としての使命である。そこで本学術大会では、機関誌『学校保健研究』の2012年からの連載「学校保健の研究力を高める」を発展させた教育的なシンポジウムが開催された。具体的には、5名のシンポジストからそれぞれ、「さあ、研究を始めよう」、「論文を読む」、「データを集めて分析する」、「学会で発表する」、「論文を書く」というテーマで、貴重な提言が示された。

また、一般発表（口演、ポスター）は250演題を

超え、各発表会場において活発な議論がみられた。その中でポスター発表では、新しい試みとして、知の「発信」に関わってプレゼンテーション力の一層の向上をねらい、参加者同士で優れた発表ポスターをたたえあう取組（シール貼付）が実施された。

今後、学校保健に関する研究の学会発表数や投稿論文数の増加とともに、質の一層の向上も期待され、研究活動のさらなる活性化につながることを願う次第である。

成長期のからだや下着について 簡単に指導できる「無料DVD」配布中。



視聴時間：約10分

下着教室ツボミスクールで講師が話している内容をまとめた「テキストとDVDのセット」を無料提供しています。DVDは約10分で、視聴するだけでも知識が得られる内容です。宿泊学習前のご指導などにぜひお役立てください。

※お申し込みは随時受け付けています。



お申し込みはホームページから！

※スマートフォンからもご利用いただけます。 [ツボミスクール](#) [検索](#)



ツボミスクールの養護教諭コースが 全国へ無料出張いたします！

「関東」と「関西」を中心に出張しておりますが、参加者が養護教諭や学校関係者に限り全国へ無料出張いたします。研究会や講演会のひとつとして、ぜひお役立てください。

- コース：養護教諭コース
- 人数：30名程度よりお受けいたします
- 会場：公民館や学校などの公的施設をご手配ください
- 費用：無料（講師料・交通費は不要です）
- 期間：年中（6.7月を除く）

詳しい内容やお申し込みは下記までお問い合わせください。

ツボミスクール運営事務局

TEL 0120-203-248 [受付時間] 平日9：30～17：00

学校等欠席者・感染症情報システムについて

平成 29 年度から、学校欠席者情報収集システムと保育園サーベイランスが統合され、システムが改定になるとともに名称を変更いたしました。改定の経緯と今後の活用についてお知らせいたします。

学校欠席者情報収集システム改定の経緯

日本学校保健会 専務理事 弓倉 整

1) 学校欠席者情報収集システムとは

学校欠席者情報収集システムは、厚生労働省科学研究費補助金（科研費）のもと、国立感染症研究所（以下、感染研）の研究員によって開発され平成 20 年に出雲市で試験運用が開始され、その後地域の広がりを見せたものである。このシステムは学校の各クラスの欠席状況を養護教諭らが入力することによって、日々の欠席情報等の情報が学校、教育委員会、保健所、学校医等に同時に共有できるもので、リアルタイムな感染症の流行状況把握が可能となっている。また、紙媒体の学級閉鎖の届出等がシステム上でも行えるため、事務のペーパーレスにも役立っている。

2) 経緯

科研費が切れた平成 25 年度から日本学校保健会が運営を行うことになった。本システムとは別に、保育園サーベイランスというシステムが保育園を対象として感染研の研究員によって運用されていたが、主な運営費は日本学校保健会の学校欠席者情報収集システム運営費の中で賄われていた。

平成 28 年のシステム導入状況は、下図のようになり多くなっている。ランニングコストに加え、新規導入に伴う経費負担も大きく運営が厳しくなったが、本システムの中断や中止は影響が大きいと考え、日本学校保健会と感染研のメンバーによる「学校欠席者情報収集システム在り方検討委員会」（以下、在り方検討委員会）を平成 27・28 年度に設置し、日本学校保健会は感染研と共同研究契約を締結して本システムのコストダウンやサーバー改修など安定的運用が可能になるよう検討を重ねた。当時、1 県につきサーバーを 1 台置いていたため 22 台のサーバーが稼働していたが、数台のサーバーに集約させてコストダウンを図ると

ともに、長期的な安定運用について議論した。一時的に新規導入をお待ちいただいたのはそのためである。

3) 今後の方針

在り方検討委員会で決定された事は以下の点である。

- ① 学校欠席者情報収集システムと保育園サーベイランスを統合して「学校等欠席者・感染症情報システム」とする
- ② 新規導入者のみならず現在の利用者も「学校等欠席者・感染症情報システム」利用許諾を、平成 29 年度から準備ができ次第、日本学校保健会と締結する。今までの保育園サーベイランスの利用者も利用許諾を締結すれば現状のまま利用できる。利用許諾はシステムの画面上に載せる使用規程を読んで、個々の利用者が承諾のアイコンをクリックする事で締結できる
- ③ 新規導入にあたり、新規登録費用は今まで通り無償とするが、地図と届出様式については、有償とする
- ④ 研修会は、従来のスタートアップ研修とフォローアップ研修を統合して、年数回の研修会を日本学校保健会と感染研が共催で開催し、研修者が地域の利用者に伝える伝達式研修を原則とする
- ⑤ 本システムへの対応窓口は、原則として自治体単位とする
- ⑥ システムに対する問い合わせは、個々の学校や園が直接日本学校保健会や感染研に問い合わせをするのではなく、原則的に都道府県・指定都市・区市町の担当課が窓口となって対応をお願いし、必要な場合のみ日本学校保健会または感染研担当者に連絡する

現在の導入状況（平成 28 年 4 月現在）

種別	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	保育園	こども園
導入施設数（H28.4）	3,547	11,887	5,620	2,964	746	9,231	976
全国総施設数（H28）	11,252	20,313	10,404	4,925	1,125	23,447	3,533
システム導入率	31.5%	58.5%	54.0%	60.2%	66.3%	39.4%	27.6%

	都道府県	指定都市
学校導入率 80%以上	24	7
保育園導入率 80%以上	11	5

- ⑦ 入力された素データが膨大な量になっているため、期限を定めて古いデータをサーバーから削除し、システム負荷を軽減させる
- ⑧ 利用者には、日本学校保健会と感染研に活用事例などフィードバックをお願いし、より良いシステムへの改善を図る
- ⑨ 安定運用のため、関係団体に寄附や賛助金を

募ることを検討する

4) 最後に

学校欠席者情報収集システムと保育園サーベイランスの統合により、最初は利用許諾の締結や自治体窓口の明確化、研修方式の変更など、従来とやや異なる体制になることをご理解いただきたい。「在り方検討委員会」は、平成 29 年度から「学校等欠席者・感染症情報システム運営委員会」と名称を変え、本システムを安定化した事業として運営し、地域のリアルタイムな感染症サーベイランスに寄与するために活動する予定である。皆様のご理解とご協力をお願いします。

学校欠席者情報収集システムの自治体感染症部局における活用状況

国立感染症研究所感染症疫学センター 第一室長 松井 珠乃
センター長 大石 和徳

公益財団法人日本学校保健会（以下、日本学校保健会）と、平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメント（H27- 新興行政-指定-001）の共催で、平成 29 年 1 月 5 日（木）に、自治体の感染症部局において、学校欠席者情報収集システムが感染症のリスク評価にどのように利用されているかを、ワークショップ形式で、複数自治体間で検討した。その結果を以下にまとめる。なお、詳しくは日本学校保健会のポータルサイト「学校保健」に掲載されている関連記事（<http://www.gakkohoken.jp/column/archives/89>）を参照されたい。

同システムの、リスク評価における有用性は、施設内の集団発生の迅速な探知とともに、地域の流行状況をリアルタイムで把握できることが挙げられた。集団発生の迅速な探知については、同システムを導入している施設においては、疾病の発生を発症時にとらえることができ、これは、医師の診断を待つ必要がないことから、迅速性があると評価された。また、同システムは、保育園と幼稚園・学校を一体として感染症の発生情報をモニタリングしており、これにより、地域における感染症の伝播をリアルタイムに包括的にとらえることができる。

コミュニケーションのツールとしては、同システムを通じて、リアルタイムで情報が関係者と共有できることから、迅速な対応に役立つ。また、集団発生時や、地域流行の発生時などにおいて、システムから直接得られる流行曲線や地図を用いて、一般市民・保護者等へのリスクコミュニケーションを適切に行うことができると評価された。

また、サーベイランスデータの解釈方法の研修

等を通じて、施設管理者などの感染症対応能力強化に役立っており、また、システムを共同で利用することにより関係者の連携強化にも役立つと評価された。

制約としては、導入はされているが活用を積極的に行うことができていない自治体、また導入の検討がなされたが導入に至っていない自治体の状況については、今回、情報を得ることができなかった。また、感染症部局の立場からの有用性の評価を行ったことから、それ以外のステークホルダーの意見を直接聴取することができなかった。

国の事業として行われている感染症発生動向調査で得られている疫学情報と、本システムから得られる疫学情報にどう違いがあるのか、またそのそれぞれの特性を踏まえ、どのように相補的にリスク評価に結び付けていくのかという点の検討も必要であろう。

また、本システムの、学術的な有用性を検討するために、当該自治体関係者、日本学校保健会との協力のもとに、GIS（Geographic Information System：地理情報システム）による解析を加えるなど、疫学的な解析を進める意義があると考えられる。また、欠席状況が延べ数で収集されていることから、新型インフルエンザのパンデミックに備え、これを保護者の欠勤（疾病の社会的インパクトの指標の一つ）の代替指標とするための検討などについての研究を行う価値があると思われる。

当システムの有用性、また、保育園の情報を、幼稚園・学校のものとして監視をすることについての意義は、参加者において意見の一致をみたが、現状のシステムを安定運用するために、過大な負荷を与えている素データの長期保管の問題については、技術的な検討とともに関係者の合意を得ることが急務である。

特別企画

子どもとメディア実践事例紹介

平成28年度の年間特集「子どもとメディア」は大変ご好評いただきました。全国養護教諭連絡協議会のご協力で養護教諭から発信されたメディアに関する実践事例（小学校3校・中学校2校・高等学校1校）をご紹介します。

小学校での
実践事例①

よりよい生活習慣をめざして ～メディアと上手につきあおう～

昨年度の全国学力検査において、本校では、メディア（テレビ、ゲーム・パソコン等）に長時間接していると答えた児童が、全国平均を上回っていることがわかった。また、保護者、高学年児童を対象に実施している学校評価アンケートにおいても、睡眠時間が少なく、その理由として、メディアに関わっているためと答えた児童が多かった。

このような実態から、本校では、メディアとの関わりについて考え、よりよい生活習慣が身につくよう、PTAとも連携しながら取り組んできた。

(1) 学校保健委員会の取組

児童保健委員会が中心となり、メディアについてのアンケートを実施した。アンケート結果より、メディアについてルールを決めている家庭が約40％と少ないことや、携帯・スマホの所持者が多いことなどがわかった。これらのアンケート結果を基に、テレビやゲーム、そして、パソコン・携帯などのメディアに対して時間を使いすぎないように、今後の改善策等について話し合った。

(2) 「すこやかカード」の実施

学校保健委員会での話し合いの結果を受け、PTA役員会でも検討するなどして、メディアを含めた生活習慣の改善を図るために、「すこやかカード」を使用し調査を実施すること

群馬県伊勢崎市立広瀬小学校 養護教諭 永山 亘子

となった。毎月、家族全員で話し合いを持つことにより、睡眠や朝食など生活習慣について振り返り、メディアのルールを決め、実行されているかなど確認する機会を設定した。

(3) 学校医による講話

メディアの時間と学力との関連や脳に与える影響などについて高学年児童、保護者を対象に学校医から指導を受けた。

以上のような取組を行ってきた結果、メディアについてのルールを決めている家庭が、実践前より約8％以上高くなった。さらに、すこやかカードを実践してから、自分の生活に気をつけるようになったと答えた児童も約80％であった。このことは、生活を振り返るきっかけとなり、よりよい生活を送ろうとする意識と態度が高まってきたのではないかと考えられる。今後も、継続的に取り組んでいくことが、生活習慣を振り返らせ改善につながっていくのではないだろうか。

いろいろな意見が出ました

やくそく・ルールをつくる。

例えば…テレビは1日2時間

ゲームは30分

携帯・スマホは8時まで

小学校での
実践事例②

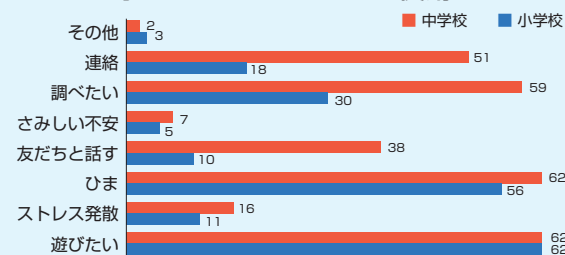
子どもたちの実態調査から見えてきたこと

メディアやネットによる情報が氾濫した生活の中で、子どもたちの心身の健康被害が危惧される中、本校の子どもたちへのメディア対策としての取組みは、近隣の小中学校と連携しての地域学校保健委員会の中で、対策を協議して始まったことである。そのためには子どもたちの実態を明確にする必要があった。体調不良を訴えて保健室に来室する子どもたちの様子から、メディアやネットの使用にルールがない状況で心身の健康に影響している事例はいくつもあったが、学校全体としての状況は把握していなかった。また、このような子どもの状況は本校だけの実態ではないと考えられたので、近隣の小中学校（郡山市立郡山第一中学校・郡山市立薫小学校・郡山市立開成小学校・郡山市立柴宮小学校）の養護教諭に呼びかけ、地域学校保健委員会として実態把握を行い「子どもたちのメディア・ネット状況と心身の健康状態」としてまとめた。その中で気になる結果がいくつか出てきたが、「どんな時にメディア・ネットを使用するか」という問いに、「暇な時」と答えた子どもたちが多いということは予想外であった。メディアやネットのアプリや動画の面白さに魅せられて遊びとして長時間使用している子どもたちが多いのだろうと予想していたが、「暇な時」に使用している子どもたちも多かったことである。この結果は、地域学校保健委員会の中でも活発に意見が出された。その概略は大人たちは、「子どもたちと時間を取って触れ合っているだろうか」「忙しさを理由に子どもたち

福島県郡山市立大成小学校 養護教諭 湯田 厚子

に安易に情報機器を買い与えていないだろうか」「子どもが何かに熱中するような活動に出合うきっかけづくりを大人が積極的にしていく必要がある」など、である。その他の結果からも学校医、保護者、教職員で課題を共有しながら、対策について熱心に協議が行われ、学区としての指針を決めて取組んでいくことになった。指針の中身や具体的な取組みの紹介は紙面の都合上省略させていただくが、子どもたちへの情報モラル教育の必要性もさることながら、メディアの使用についての大人の意識の持ち方をあらためて考えていく機会となり、使用法について親子で話し合うことの大切さを確認できた。

どんな時にメディア・ネットを使用しますか



<調査人数：小学校2,205人 中学校736人 複数回答>

小学校での
実践事例⑧

中学校区の小中学校と家庭を巻き込んだ「アウトメディア（ノーテレビ・ノーゲームデー）」の取り組みについて

富山県高岡市立野村小学校 養護教諭 網 美智代

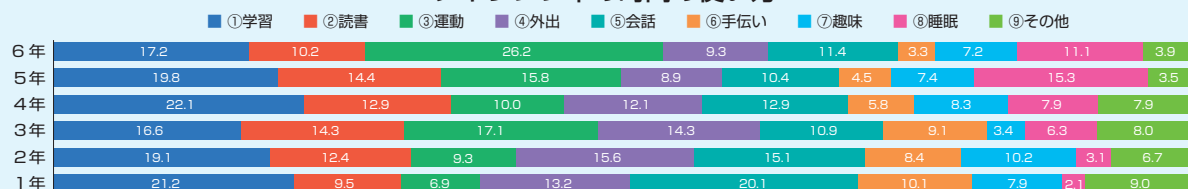
近年、テレビ、ビデオ、ゲーム、パソコン、スマートフォン等電子映像メディアの急速な普及により、子供たちの生活はかなり変化しています。本校では27年度から、児童生徒のメディアに振り回されない自主性、メディア情報の危険から身を守る力を育てるために、中学校区の小中学校と家庭が協力して、「アウトメディア（ノーテレビ・ノーゲームデー）」に取り組んでいます。実施期間は中学校の期末考査に合わせて、学期に1回3回行っています。この取組は、アウトメディアによって、豊かな「時間」「心」「つながり」を目指すために学校・家庭・地域が連携し協力し合うものです。家族で話し合い、目標コースを設定し、一緒に取り組むことで、よりよい生活習慣を見直す機会となっています。

かめさんコース  食事中（朝・昼・夜）はテレビ、ビデオを消す。スマホ・携帯もしない。	とりさんコース  テレビ、ビデオ、ゲーム、パソコン、スマホ・携帯の時間は1日1時間までにする。見る番組等は家族で話し合って決める。
うさぎさんコース  1日中、まったくテレビ、ビデオは見ない。ゲーム、パソコン、スマホ・携帯もしない。（ノーメディア）	オリジナルコース 家族で目標を決める。（例：テレビを見るのは朝8時まで、後はノーメディア 等）

日頃、テレビやビデオ、ゲーム、インターネット等の電子メディアに触れていた時間を、今回のアウトメディアチャレンジ週間にどんなことをして過ごすかなどについて家族で話し合います。

3回目（2/18～2/23）の結果

チャレンジ中の時間の使い方



実施後の感想

- （6年保護者）姉が勉強をしていると、なぜか弟も一緒にやっていて、とてもよい影響です。音と光に流されない静かな生活の中で自分のやりたいことを見い出してください。
- （6年児童）メディアを使わないときは、勉強するなど、工夫して過ごすことができました。アウトメディア週間でなくてももしっかりアウトメディアを心がけたいです。
- （5年保護者）自分で決めた目標だから頑張って守っていました。少しずつ時間を増やし続けていけるよう声をかけたいと思います。
- （5年児童）家族との会話や読書をするのはよいことだと思いました。

中学校での
実践事例①

メディアコントロールの取り組みについて

宮城県仙台市立東華中学校 養護教諭 及川 典子

仙台市では平成24年から「健やかな体の育成プラン」の健康教育推進事業の取り組みが始まり、本校も平成26年から健康教育推進実践校として運動習慣・食習慣・生活習慣のトライアングルで楽しく改善に取り組む健康教育をすすめてきました。本校の生活習慣の課題は、メディア利用時間が長いことでした。具体的には、メディア利用時間が4時間以上の生徒が4人に1人であり、1日あたり2時間以上テレビやDVDの視聴をしている生徒は、仙台市の平均と比べるとどの学年も10%前後高くなっていました。

はじめに学校医の健康講演で意識付けを行い、生徒保健委員会活動を通してメディア利用時間を減らし、睡眠時間を確保することで健康増進・学力向上を目指す取り組みを始めました。定期的にメディア利用時間を意識し、1時間以内に抑えることを目的とし、「ゼロのつく日はプチメディアデー」をかね、校内放送や帰りの会での呼び掛け、垂れ幕や掲示物の活用、そして、チェックカードを作成して利用時間のチェックを行いました。チェックカードは、クラスごとに平均時間や1時間以下の人数を保健委員会が集計し、グラフ化そして呼び掛けの材料に活用しました。今年度は、集計したデータを活用し、文化祭でクイズを盛り込んだステージ発表を行いました。保健委員会では常に発展的な話し合いが行われ、クラス対抗でメディア利用時間を競い合う「プチメディアグランプリ」を企画し、利用時間が増える考査後に毎回実施しました。また、図書委員会

は、プチメディアデーにオススメの本を紹介するなど他の委員会活動でもメディアに関する企画が行われました。

さらに、意識調査の際に「プチメディアデー」を行って感じたことの自由記述には、「睡眠時間が増えた」、「体調が良くなった」、「集中力が上がった」、「家族や友人との会話が増えた」などがありました。このメディア利用を意識することで体感した健康を教材として生かし、担任による保健指導も実践しました。メディアと平行して、自己肯定感を高めさせるホメホメ大作戦や健康に興味関心を持たせる工夫なども取り入れてきました。

生徒保健委員会を中心としたこれらの取り組みによって、ほぼ全員がメディアコントロールの意義を理解し、日常的に3人に2人はメディア利用時間を意識して生活するようになりました。今後の課題は、ネット社会での安全で有効なメディアの使い方になり、家庭や地域との連携を強化して推進していきたいと考えています。



中学校での 実践事例②

生徒が考えた「安城ケータイ・スマホ宣言」を生かすために

愛知県安城市立篠目中学校 主任養護教諭 山下 和美

児童生徒のメディア使用によるさまざまな問題（健康面やいじめ・不登校等）があるといわれ、その中に、使用ルールがないということが指摘されていた。そこで、安城市では、安城市の8つの中学校の生徒が、携帯電話・スマートフォンの使い方についての考えをもち寄り、「安城ケータイ・スマホ宣言」を策定した。

それを受けて、本校では、「携帯・スマホ使用と睡眠等心身の健康に関するアンケート」を、513名を対象に実施した。その結果はグラフ化し、保護者が多く集まるPTA総会の日に、資料として配付した。気になる箇所について説明し、携帯やスマホ等を持たせる際は、「安城ケータイ・スマホ宣言」をもとに家庭でルールを話し合ってもらおうよう促した。「携帯・スマホ使用と睡眠等心身の健康に関するアンケート」結果の中で気になった箇所は、携帯・スマホやインターネット等を3時間以上使用しているという生徒が約20%ということ、SNSを50%以上活用していること、そして、SNSを3時間以上使っている生徒は、全体と比べて、「朝、眠くて起きづらい」割合が高くなっていった点である。また、「午前中から眠くなる」生徒は80%に達していた。教師からみた学校生活の中での生徒の気になる点として、「朝から眠そうにしている生徒が多い」が挙げられており、生徒の自覚と一致している。部活動や学習をきちんと行おうとすれば、3時間以上の携帯・スマホやインターネット使用は、睡眠時間を削っていることも考えられる。また、「朝食を食べない」と答えた生徒数と携帯・スマホやインターネット等を3時間以上使用の数が、ほぼ同数であっ

た。生徒のこれらの心身の状態は、携帯・スマホの使用時間の長さも一因となっているのではないかとことや中学生の心身の現状を知って、声かけの参考にしてほしいと伝えた。生徒に対しては、生徒集会の機会に、生徒保健委員が、クイズや劇にして、アンケート結果を伝え、携帯・スマホのマナーやルールの必要性を訴えた。

3年生対象の「いのちと性の学習」の際には、性のネット情報に関して、正しく使用するという内容を組み入れた。さらには、携帯・スマホの活用や危険性に関して、専門家を招いた講習会を保護者向けと生徒向けに分けて実施した。

携帯やスマホ等は、便利な機器であり、学習にも活用できる反面、危険性も潜んでいる。今後も、生徒が主体となり、自らの意志で、これらの機器を有効に活用できるように啓発活動や取り組みを行って行きたい。



高等学校での 実践事例

保健委員会活動で取り組んだ 「スマートフォン拓陽ルール作りの為に」 の提案について

栃木県立那須拓陽高等学校 養護教諭 安藤 季美

①はじめに

本校の保健委員会活動は、健康な生活を送るために必要な情報を発信する活動として、毎年テーマを決めて取り組んでいる。平成27年度は「生活習慣を整えて健康な生活を送ろう～スマートフォン拓陽ルール作りの為に～」とした。

②テーマ設定理由と活動の概要

テーマ設定の理由は、ほぼ全員が所持しているスマートフォンの使用に関して、今のままでは、友人間でのトラブルや生活習慣の乱れの原因になる可能性があるため、何かしらの「拓陽ルール」を作る必要があるのではないかということだった。そこで実態を調査したところ、注目した結果は睡眠時間は十分取っているが「普段何でもないのにイライラする60%」と「寝る直前までのメディア使用63%」という事であった。このことから睡眠とスマートフォンとの関係を調べると、睡眠の質にはスマートフォンの特にブルーライトが関係あることが分かった。そこで今回は、「寝る直前までのメディア使用」の問題点について、生徒目線の四コマ漫画リーフレットを作成し、全校生へ配布した。

また、学校祭では全校生に向け、道具に振り回されない使い方を一人一人が考え、良い生活習慣を定着させて欲しいと提案した。

③成果と今後の課題

今回の提案は、スマホとの関係を考え直すきっかけになったとの感想が多く寄せられた。生徒目線のリーフレットは大変好評でHPにも掲載した。

今回はテーマ設定時に考えた「拓陽ルール」作りまでは至らなかったが、今後も「拓陽ルール」作りの為に活動を継続していきたいと考えている。



平成29年度「学校保健用品・図書等推薦」一覧

推薦期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日

品 目	摘 要	会 社 名
健康管理支援ソフト応用版 子供の健康管理プログラム (平成27年度版)	「児童生徒等の健康診断マニュアル平成27年度改訂」付録 CD-ROM の応用版。Excel 原票を用い、個々にパーセントایل成長曲線が描ける PC 用ソフト	勝美印刷株式会社
JES シューズ	「JES 活動 (足元からの健康教育『足育』の普及啓発活動)」を推進するために研究・開発した学校シューズ	日本教育シューズ協議会
小学校・中学校・高校生向けシャツ・ブラウス	耐洗濯性に優れた制菌加工を施した形態安定シャツ	エクセル株式会社
シキボウ「健康快服」	学生服、体操服、給食衣等 健康な学校生活を送るための機能加工を施した生地。抗ウイルス・抗菌防臭・制菌・抗かび・消臭・ノロウイルス対策・防汚加工	シキボウ株式会社
UVカットウェアスクールシリーズ	学校生活の紫外線対策として、UV カット率の高い特殊な繊維を使用したスクール対応衣類製品	株式会社ビーカパー
電動付歯ブラシ「こどもハビカ」	米国 FDA の規格基準を満たす品質・安全性。通常のブラシの使用が困難な子どもにも有効な仕様	株式会社ミニマム
クリニカ kid's ハブラシ生え替わり期用	子どもの成長過程に合わせた歯科医推奨設計のハブラシ	ライオン株式会社
ライオンこどもハブラシ6-12才用 (ドラゴンボール超) (まめゴマ) (妖怪ウォッチ)	先端丸形カットの毛先だから生え替わり期の高さがふぞろいの歯もきれいに磨けるハブラシ	ライオン株式会社
腸内細菌検査キット	学校給食従事者、文化祭、実習時等に必要とされる検便検査キット。郵便等で簡単に検査が受けられる	一般財団法人東京顕微鏡院
パッシブガスタープ (ホルムアルデヒド用、VOCs用)	室内化学物質測定。3次元に空気を採取でき、精度の高いサンプリングが可能。厚労省・文科省・環境省等すべてに対応する分析 (公定法) を採用	一般財団法人東京顕微鏡院
マイティチェッカー	屋内の塵性ダニアレルゲンを抽出液に浸し発色チェッカーで確認、ダニ抗原を簡単に測定できるキット	リオンテック株式会社
デジタルCO ₂ モニター (RT-50A1)	教室内のCO ₂ 、温度、湿度をリアルタイムに計測、データを記憶保存ができる	リオンテック株式会社
日産アクアチェック®シリーズ	残留塩素濃度測定試験紙	日産化学工業株式会社
ハイライト®	プール用殺菌・消毒剤	日産化学工業株式会社
日曹ハイクロン	プール用殺菌・消毒剤	日本曹達株式会社
ネオクロール	プール用殺菌・消毒剤	四国化成工業株式会社
バイゲンラックス	プール用水、飲料水等の殺菌消毒剤	株式会社カズサ
アクアビルシリーズ	プール水透明度改善凝集剤 人体無害、液に接触せず投入が可能	エタニ産業株式会社
トヨクロン (トヨクロン、トヨクロンファイン)	プール用殺菌・消毒剤	東ソー株式会社
肝油ドロップ	栄養機能食品	河合薬業株式会社
キシリトールガム及びタブレット	児童生徒の口腔保健の向上を目的としたチューインガム及びタブレット	株式会社ロッテ
ボスカ	元の健康な歯と同じ結晶の並びになる再結晶化による再石灰化を促進させる成分「Pos-Ca (正式名リン酸化オリゴ糖カルシウム)」を配合したガム	江崎グリコ株式会社
ボスカF	元の健康な歯と同じ結晶の並びになる再結晶化による再石灰化を促進させる成分「Pos-Ca (正式名リン酸化オリゴ糖カルシウム)」を配合したガムに緑茶エキスを追加配合した「ボスカ」の系列品	江崎グリコ株式会社
熱中症注意表示板 「トリガーボード」	日常の学校生活における実践的防災教育教材。通常気温では校訓や教育標語の表示、熱中症の危険気温になると自動的に注意喚起表示に反転し、児童生徒に危険回避行動を起こすきっかけを与える効果が期待できる	株式会社奥村
アクエリアス	熱中症対策飲料として、全国清涼工業会制定 (厚生労働省確認済み) の熱中症対策表示ガイドラインに定められたナトリウム量に合致し、ローカロリーで、スムーズな水分補給ができる	日本コカ・コーラ株式会社
アクエリアス ゼロ	ゼロカロリー。熱中症対策飲料として、全国清涼工業会制定 (厚生労働省確認済み) の熱中症対策表示ガイドラインに定められたナトリウム量に合致し、スムーズな水分補給ができる	日本コカ・コーラ株式会社
アクエリアス ビタミン	ビタミン C1000mg / 500ml 配合。熱中症対策飲料として、全国清涼工業会制定 (厚生労働省確認済み) の熱中症対策表示ガイドラインに定められたナトリウム量に合致し、ローカロリーで、スムーズな水分補給ができる	日本コカ・コーラ株式会社
とれた! (Toretal)	熱中症対策飲料として、全国清涼工業会制定 (厚生労働省確認済み) の熱中症対策表示ガイドラインに定められたナトリウム量に合致し、ローカロリーで、スムーズな水分補給ができる	日本コカ・コーラ株式会社
アイスボックス〈グレープフルーツ〉	全国清涼工業会制定の熱中症対策表示ガイドラインに定められたナトリウム量を配合した水菓子。低カロリーで飲料より少ない量で体を冷やすことができる	森永製菓株式会社
アクアソリタ	長年医療現場で使用されてきた電解質液組成をベースに開発された、飲みやすい終口補水液 (特許取得済)。ハイポトニックで水分・電解質の吸収が速く、しっかりと体内に保持できる、糖分・カロリーにも配慮した熱中症対策・脱水対策飲料	味の素株式会社
ハンズフリーランドセルカバー (登下校携行品補助用品)	小学児童の登下校の安心・安全プロジェクト普及啓発活動を推進する登下校携行品補助用品	一般社団法人こども・すこやか研究所
しろくまのきもち キッズ	水だけで首元が冷やせ、繰り返し使えるサマースカーフ。園児・児童の熱中症予防に有効な頸動脈を冷やせる冷却グッズ	株式会社ビッグウイング
スタークロン	プール用殺菌・消毒剤	南海化学株式会社
スタートリクロン・ダイクロン	プール用殺菌・消毒剤	南海化学株式会社
アレルブロック加工 カーテン・カーベット	アレルギーの原因物質である花粉やダニ、ハウスダストのアレルゲン抑制効果のある加工を施した繊維を使用したカーテン・カーベット	株式会社スミノエ
嘔吐物、汚物処理剤「オプツボイボイ」	汚物やウイルス・細菌などの感染症の疑いのある嘔吐物を除菌、消臭して安全にスピーディーに固めて処理できる凝固剤。教室などでの嘔吐物を安全に迅速に処理できる	株式会社環境衛生

品 目	摘 要	会 社 名
スカイウォーター グレープフルーツ味・グレープ味	熱中症対策としての水分補給。1リットル当たりの糖類使用量が少ないスポーツドリンクパウダー	クラシエ フーズ株式会社
スカイウォーターゼロ ライチ味	熱中症対策としての水分補給。糖類ゼロのスポーツドリンクパウダー	クラシエ フーズ株式会社
3WAY UV カット帽子	幼稚園や学校の登下校用にも使用できるデザインで、特殊な繊維を使用した、高UVカット率の紫外線対策用帽子	株式会社ビーカパー
学校健診情報の個人及び教育委員会、学校への 可視化還元システム	学校健診情報の可視化による個人・自治体・学校（私立の場合）に対しての健康情報の還元とそのデータベース化を行うシステム	株式会社学校健診情報センター
ホルムアルデヒドチェッカー FP-31B型	ホルムアルデヒド、二酸化窒素両用測定器。教室内、什器等から発生するホルムアルデヒド及び燃焼器具から発生する二酸化窒素の測定に対応	リオンテック株式会社
RYOBI-校支援	小学校から中学校までの9年間のデータを学年ごとに管理、養護教諭が手入力する必要なく、「応用版子供の健康管理プログラム平成27年度改訂版」の基本データファイル「Excel 原票」に自動変換して出力する機能等を搭載	株式会社両備システムイノベーションズ
ミズスキットール	プール水透明度改善凝集剤 人体無害、簡単に使用でき、機器や環境にやさしい	日産化学工業株式会社
らくらく服薬ゼリー	世界35か国1地域で特許取得。薬やサプリメントがのどに詰まらず、むせずに飲むゼリー状のオブラート。ローカロリー、ノンシュガー、ノーマレルゲン	株式会社龍角散
おくすり飲めたね	世界35か国1地域で特許取得。薬を楽しく安全に飲むことが出来るゼリー状のオブラート。医薬品と相互作用がなく、子どもの体にも安全	株式会社龍角散
乳酸菌タブレット	日頃の体調管理などで、子どもでもおいしく手軽に食べることができる「シールド乳酸菌®M-1」を配合した錠薬	森永製菓株式会社
ロリエエフ しあわせ素肌	吸収性に優れ、肌にやさしい生理用ナプキン	花王株式会社
ロリエエフ きれいスタイル	吸収性に優れ、肌と下着を清潔に保つおりの専用シート	花王株式会社
EDUCOM マネージャー C4th	登録された健康診断情報を利用した成長曲線を含めた各種帳票が作成できる。「子供の健康管理プログラム」にも対応した校務支援システム	株式会社EDUCOM
ダノンデンシア	1日に必要な量の50%のカルシウムと100%のビタミンDが1カップ(80g)で摂取できる	ダノンジャパン株式会社
アイガード	激しい動きのスポーツ時での目の安全を第一に考えたアイウェア「スポーツ用メガネ」	山本光学株式会社
学校保健総合管理(えがお)	学校の保健業務を総合的に支援する校務支援ソフトウェア	スズキ教育ソフト株式会社
アルボース石鹸液I (販売名: アルボース石鹸液SD)	純植物油を原料としたカリ石鹸を使用。手にやさしく洗浄と同時に殺菌・消毒ができる。生分解性が良好で環境にやさしい	株式会社アルボース
スズキ校務シリーズ	日々の出欠や保健室への来室記録・健康診断の結果などの登録から集計、保護者への通知文書の発行までデータ管理や帳票作成を支援するPC用ソフトウェア	スズキ教育ソフト株式会社

小学校の校長先生・保健室の先生・担任の先生へ

楽しく学ぼう！ 歯の健康づくり

出張講座 参加校募集

出張講座概要

募集対象 全国の小学校 ※応募多数の場合抽選

開催時期 2017年9月～12月

専門講師 日本歯科大学 生命歯学部 福田雅臣教授ほか予定

講座内容 咀嚼判定ガムを使って「噛む」事の大切さを体験しながら歯・口の健康づくりを学び、良好な生活習慣形成をしていくための支援を目的とします。

応募締切 7月1日(土)

高学年対象

特典

きむらゆういち先生の
絵本プレゼント!!

「あらしのよるに」でおなじみのきむら先生書き下ろしの「歯の健康」がテーマの絵本。
出張講座にお申込みいただくと、
もれなく差し上げます。



申込方法

①学校名 ②担当教諭名 ③住所 ④連絡先(電話・FAX) ⑤希望日時 ⑥参加予定学年・人数 ⑦希望コース ⑧植樹の可否

※本活動普及の為、メディア等が取材をさせて頂くことがございます。予めご理解頂けますようお願い致します。
※①～⑤を白紙等にご記入頂き、FAXにてご応募ください。

Aコース 授業(45分) ※授業参観(オープンスクール)での開催を優先させていただきます。

Bコース 授業(45分)＋児童と一緒に給食を食べた後にガムを噛み、食後の口内環境をおさらいします。
※講座の時間は給食前、4時間目を設定してください。

Cコース 授業(45分)＋児童下校後、教職員会議(学校保健委員会)にて職員の皆様に授業の更なる解説を行います。
※時間は下校前、5、6時間目を設定してください。会議での解説は30分前後です。学校保健委員会開催の場合は別途ご相談ください。

どのコースでも出張講座の記念にキシリトールの原料となるシラカバの木を植樹させていただきます。

申込先: FAX 03-6222-4823 企画・監修/共催: (公財)日本学校保健会

歯の健康づくり講座事務局(プラスエム内) 電話03-6222-5251 協力: **LOTTE**

虎ノ門 (144)

「大切ないのちを救うための勇気」

今年度の特集が「いのちの大切さを考える健康教育」となり、本号よりスタートした。今後、特集の中で掲載する予定になっているが、AEDを含む心肺蘇生法の指導もいのちを大切にする健康教育といえる。私も、高校1年生の保健の一単元で、実技をとともう胸骨圧迫とAEDの使い方についての授業を担当させてもらっているが、その中で心肺蘇生の技能面の指導とともに、倒れた人に近づき声をかける勇気こそが、大切ないのちを救うことにつながるということを生徒に伝えている。

生徒の中には、すでに中学校で心肺蘇生法を学んできている生徒もいる。授業前に、その時点での心肺蘇生法に関する自信度をワークシートで自己評価をさせたところ、当然のことではあるが、心肺蘇生法を学んできた生徒は、学んでいない

生徒よりも胸骨圧迫やAEDの使い方といった技能面についての自信度は高かった。しかし、授業後の自己評価では自信度の数値の差はほとんどなくなり、さらにいずれも数値が大幅に高くなっていた。授業の大切さ、そして繰り返していくことが大切であることを実感した。一方、この自信度の評価の中には、倒れた人がいたときに大声で助けを呼ぶことができるか、という項目もあるのだが、これは授業後の自信度の増加の程度にばらつきが見られた。自信度が低い生徒の中には、授業後も大きくアップすることがなく低いままの生徒が目立った。助けを呼ぶことは大切であると認識できても、大声を出すことが苦手な生徒は抵抗があるということだろう。大声を出すことはできないかもしれないが、倒れた人に近づき声をかける勇気も授業の中で育てていきたいと思う。

（編集委員 村井 伸子）

ご購入は、日本学校保健会HP・FAXで
—全国の書店等でも好評販売中！—

「児童生徒の健康状態サーベイランス
調査」を基にわかりやすく編纂!!



学校と家庭で育む
子どもの生活習慣
改訂版

発行／日本学校保健会
定価：2,000円（税抜）

全国養護教諭連絡協議会主催第20回研修会

期日：平成29年8月3日(木)、4日(金)、5日(土) 受付9：30～

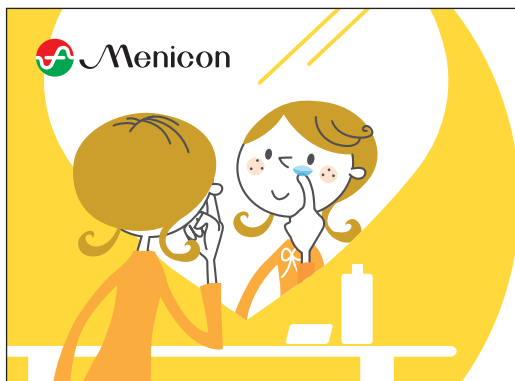
会場：ヒューリックカンファレンス（浅草橋駅前）

内容

3日	「子供の外傷と障害～運動器検診にあたって～」 日本臨床整形外科学会 理事長 田辺秀樹氏 整秀会 田辺整形外科医院 理事長 田辺秀樹氏	「保健室は「困っている子」を救う最前線」 ノンフィクションライター 秋山千佳氏
4日	「学校の先生に知っていただきたい 耳鼻咽喉科疾患」 千葉こども病院 耳鼻咽喉科 部長 仲野敦子氏	「しなやかさとやさしさを育てる支援の在り方 ～心の予防接種で免疫力を高めませんか～」 法政大学文学部心理学科 教授 渡辺弥生氏
5日	「超簡単！ あっという間のクロス集計 ～瞬に落ちるアンケートデータの活かし方～」 埼玉大学教育学部 教授 戸部秀之氏	「いのちの授業～いのちを大切にする心を育む～」 特定非営利活動法人いのちをバトンタッチする会 代表 鈴木中人氏

申込方法：6月19日～7月7日(予定)にHPの申込書に必要事項を記入の上FAXでお申し込みください。＊詳細は全養連HP (<http://yougo.jp/index.html>) をご確認ください。

Menicon



コンタクトレンズは、
眼科を受診して、
正しくお使いください。



コンタクトレンズは正しい使い方を守って、快適に使いましょう。



安易なカラーコンタクトレンズの使用には注意!! ルールをまとめたリーフレットができました。

目の健康やコンタクトレンズに関する正しい知識の指導などにぜひお役立てください。
学校保健ポータルサイトからダウンロードできます。
<http://www.gakkohoken.jp/CLguide>

ACUVUE®
BRAND CONTACT LENSES



コンタクトレンズの正しい使用と、眼科での定期検査を。
<http://acuvue.jp/goeyedoctor/>

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニー
東京都千代田区西神田3丁目5番2号 ©J&J KK 2017



くすりと、もっと仲良くなれる。

Daiichi Sankyo

くすりミュージアムのご案内

- 開館時間／午前10時～午後6時（入館は、閉館30分前迄）
- 休 館 日／月曜、年末年始 ※月曜が祝日・振替休日の場合は開館、翌日休館
- 入 館 料／無料
- 問合せ先／Tel：03-6225-1133
- ホームページ／<http://kusuri-museum.com>
- e-mail／kusuri.museum@daiichisankyo.co.jp

東京都中央区日本橋本町3-5-1 ・地下鉄銀座線・半蔵門線「三越前駅」A10出口 徒歩2分 ・JR総武線快速「新日本橋駅」出入口5 徒歩1分



学校保健総合管理

えがお4

全国 18,000 校の導入実績！

日々の業務をトータルサポートするソフトウェアです。



保健日誌

入力した情報が反映されるから効率的！



来室記録

出欠情報を瞬時に集計・確認！



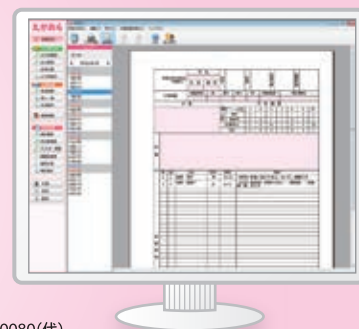
出欠席記録

記録を多角的に集計し、保健指導に生かす！



検診記録

一連の業務にそった機能で使いやすい！



スズキ教育ソフト株式会社

〒430-0815 静岡県浜松市南区都盛町157-1 TEL (053)444-0080(代)

●赤玉



日本学校保健会の推薦商品

透明度を高めます。(No.2) 藻を防ぎます。(No.5)

プール浄化剤 アクアピル

※無料サンプルを提供します。



〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-5-1
エタニ産業株式会社 TEL.03-5701-7272

●青玉

